

目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集・索引
Nissan Ambition 2030	CEOメッセージ	CSOメッセージ	取締役会議長メッセージ	ルノー・日産自動車・三菱自動車による アライアンス	日産のサステナビリティ

日産のサステナビリティ

サステナビリティ戦略

日産の考えるサステナビリティ

日産はコーポレートパーパス「人々の生活を豊かに。イノベーションをドライブし続ける。」の実現に向け信頼される企業であるために、独自性に溢れ、革新的なクルマやサービスを創造し、優れた価値を、すべてのステークホルダーに提供します。

グローバルなあらゆる事業活動を通じて企業として成長し、経済的に貢献すると同時に、世界をリードする自動車メーカーとして、社会が直面する諸課題の解決に貢献することは日産の使命です。日産は、お客さま、株主、従業員、地域社会などすべてのステークホルダーを大切に思い、よりクリーンかつ安全で持続可能なモビリティおよびその関連サービスを提供し、社会の発展に貢献していきます。

社会の課題分析とマテリアリティの特定

日産は、ステークホルダーの皆さまの関心、ならびに技術革新などの最新動向を踏まえながら、サステナビリティ戦略を策定し、活動を推進しています。戦略策定にあたって、社会や環境における課題を定期的に経営会議体で論議し、グローバル企業として、また自動車メーカーとして、グループ会社全体で取り組むべき重要課題を特定しています。

従来から定期的的に実施してきたリスク・機会分析を踏まえ、この度改めて日産の事業を取り巻く課題を再認識し、サステナビリティにかかわるマテリアリティ（重要課題）を特定しました。

特定にあたりダブルマテリアリティの考え方をとり入れ、これまでも投資家からの関心が高かった「社会・環境が日産へ与えるインパクト（財務的影響）」の視点に「日産が社会・環境に与える影響や価値」の新しい見方を加えた2側面により、企業活動とサステナビリティを相互に検討し、日産の創り出す価値を提示しました。

コーポレート長期ビジョン「Nissan Ambition 2030」、中期環境行動計画「ニッサン・グリーンプログラム2022」、サステナビリティ戦略「Nissan Sustainability 2022」などの実現に向けては、自動車セクターを超えたさまざまな協働や社会とのより密接な関係構築が重要と考えています。

今回マトリックスという形で日産の取り組みの優先順位を定義し、2030年に向けた会社の方向性をより詳細にステークホルダーにお伝えすることで、協働機会の拡大や信頼関係の向上を図り、さらなる取り組み推進につなげたいと考えています。

目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集・索引
Nissan Ambition 2030	CEOメッセージ	CSOメッセージ	取締役会議長メッセージ	ルノー・日産自動車・三菱自動車による アライアンス	日産のサステナビリティ

マテリアリティ特定のプロセス

STEP1.社会・環境課題の明確化

定期市場動向分析、ステークホルダー・投資家の皆さまとの対話より得られた社会からの期待値、グローバルスタンダード、国連気候変動枠組条約締約国会議(COP)、SDGs、世界経済フォーラム(WEF)発行のリスクレポートなどからグローバルなアジェンダを明確化。

STEP2.自動車セクターおよび日産の重要課題特定

コーポレート長期ビジョンにより実現する世界と、そこで果たすべき自動車セクターの役割という視点からリスクと機会を分析することで、日産にとっての課題を特定。

STEP3.マテリアリティの優先度整理

縦軸・横軸の2側面からリスクと機会での優先度の整理を実施し、日産のつくりだす価値と今後さらに強化して取り組むべき課題をマトリックス型により整理。有識者レビューを行い、フィードバックを反映。

STEP4.執行役員、取締役との合意

特定したマテリアリティは、各項目の設定理由や背景を含め執行役員、取締役へ報告し、合意を得て決定。

日産のマテリアリティマトリックス

今回21項目のマテリアリティを特定し、中でも日産が社会・環境へ与える価値・インパクトが最も大きい縦軸最上段の項目、および社会・環境から日産へ与えるインパクトが最も大きい横軸最右列の項目を最重要12項目としました。

特定された各項目は、事業活動へ織り込んでいくことで協働機会を拡大し、より一層充実した活動推進につなげ、コーポレートパーパスを具現化していきます。



目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集・索引
Nissan Ambition 2030	CEOメッセージ	CSOメッセージ	取締役会議長メッセージ	ルノー・日産自動車・三菱自動車によるアライアンス	日産のサステナビリティ

重要と考える理由

マテリアリティ	重要と考える理由	日産の取り組み	E	S	G
ガバナンス、法規制、コンプライアンス	コーポレートパーパスや行動規範に基づき、透明性のあるフレームワークを用いた効果的なガバナンスを通じて最大限の誠実性を持って事業運営を行う。また法規制を遵守し人々と社会に対し敬意と誠実さを持ち行動する。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ コーポレートガバナンス(P160) ✓ コンプライアンス(P175) 			✓
包括的なモビリティソリューション	自動運転などの新しいモビリティ技術とサービスをより多くの人に提供し、誰もが安心して自由に移動できるインクルーシブな社会を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 交通安全(P097) 		✓	
人権	すべての従業員が個人の尊厳と人権を最大限に尊重する組織を醸成する。また国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」を参照した社内倫理基準に基づき行動する。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 人権(P091) 		✓	
クルマの電動化	電動車ラインナップの拡充、バッテリーと車両の技術革新、クルマの多様な使い方を可能にするエコシステム構築により、カーボンニュートラル実現を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 気候変動一製品を通じた取り組み(P038) 	✓		
再生可能エネルギー	国や自治体との協働や、様々な業界団体との連携を通して、CO ₂ 削減に向けた再生可能エネルギーや代替燃料の使用を推進する。EVバッテリーの循環利用などの4R*の取り組みやV2Xの活用を通じ、エネルギーマネジメントで社会課題の解決を継続する。 *4R: バッテリーの再利用、再製品化、再販売、リサイクル	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 気候変動(P033) 	✓		
クルマの安全性	先進の運転支援技術をより多くのお客さまに提供することで、日産車のかかわる交通事故の死者数を実質ゼロにする「ゼロ・フェイタリティ」実現を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 交通安全(P097) 		✓	
クリーンな排出ガス	「大気並みにクリーンな排出ガス」を目指して、製品や拠点から排出されるのは、よりクリーンな排出ガス(Nox、PMなど含む)となるよう努める。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 大気品質(P061) 	✓		
プライバシー&データ保護	データ保護およびプライバシー権の保護に取り組み、適切なセキュリティ対策を講じてステークホルダーの個人情報を守り、新しい技術とセキュリティリスクを考慮したデータの安全な取り扱いに責任を持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ リスクマネジメント(P172) 			✓
コミュニティの発展	災害時の復旧支援や人道支援に加え、「ブルー・スイッチ」のような社会変革への取り組みを通じてコミュニティの発展に貢献する。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 気候変動-社会との連携(P046) ✓ 地域社会への貢献(P154) 	✓	✓	
製品品質	デザイン、性能、化学物質管理および車室内空質向上などの製品品質向上により、より安心・快適で使いやすいモビリティを提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 大気品質(P061) ✓ 製品安全および品質(P119) 	✓	✓	
サプライチェーンマネジメント	サプライヤーCSRガイドラインに基づき人権・環境に配慮したサプライチェーンからの責任ある調達で、原材料の安定供給と地域共存を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 環境課題を踏まえた事業基盤の強化-サプライヤーとの協働(P86) ✓ サプライチェーンマネジメント(P127) 	✓	✓	
サステナブル資源マネジメント	資源価格変動や調達リスクを回避し、資源依存を最小化するため、リペア/リユース/リビルト/リサイクルなどのサーキュラーエコノミーの効果的な循環利用による、最適なクルマ作りの仕組みを構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 資源依存(P064) 	✓		

E: 環境、S: 社会性、G: ガバナンス

目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集・索引
Nissan Ambition 2030	CEOメッセージ	CSOメッセージ	取締役会議長メッセージ	ルノー・日産自動車・三菱自動車による アライアンス	日産のサステナビリティ

サステナビリティ戦略「Nissan Sustainability 2022」

日産は2018年にサステナビリティ戦略「Nissan Sustainability 2022」を定めています。「Nissan Sustainability 2022」は「E(Environmental: 環境)」「S(Social: 社会性)」「G(Governance: ガバナンス)」の側面(重要な項目)で日産の取り組みを明確にし、企業としての持続可能な成長を目指すとともに、社会の持続可能な発展に貢献する取り組みについてあらためて示したものです。

Nissan Sustainability 2022の重要テーマ: 「ゼロ・エミッション」「ゼロ・フェイタリティ」社会の実現を目指して

クルマの普及に伴い、多くの人々がモビリティによる利便性や運転する楽しさを享受していますが、一方で、温室効果ガスの排出量や交通事故は喫緊の課題となっています。世界をリードする自動車メーカーとして日産が目指しているのは、2050年までに事業活動を含むクルマのライフサイクル全体におけるカーボンニュートラルを実現する「ゼロ・エミッション」と、日産車がかかわる交通事故の死者数を実質ゼロにする「ゼロ・フェイタリティ」の実現です。多様な人財一人ひとりが力を発揮するとともに、中長期に成長できるインクルーシブな(多様性を受容できる)組織を構築し、その実現を目指していきます。

コーポレートパーパス
人々の生活を豊かに。イノベーションをドライブし続ける。



環境: 日産は「人とクルマと自然の共生」という環境理念のもと、社会的要求かつ長期視点に基づき環境課題の解決に貢献します。

ニッサン・グリーンプログラム 2022

- ・中期環境行動計画「ニッサン・グリーンプログラム 2022(NGP2022)」を通じて、「気候変動」「資源依存」「大気品質」「水資源」の4つの課題に取り組みます。

社会性: 日産はあらゆるステークホルダーの権利を尊重します。

交通安全

- ・日産車がかかわる交通事故の死者数を実質ゼロにする「ゼロ・フェイタリティ」実現に向け、事故そのものを減らすための取り組みを進めます。

ダイバーシティ&インクルージョン

- ・性別、国籍、民族、人種、世代など、さまざまな背景からなる多様な人財一人ひとりが、力を最大限発揮し、持続的な成長とイノベーションを創出しているインクルーシブな組織を構築します。

目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集・索引
Nissan Ambition 2030	CEOメッセージ	CSOメッセージ	取締役会議長メッセージ	ルノー・日産自動車・三菱自動車によるアライアンス	日産のサステナビリティ

品質

- ・長きにわたり日産車をお選びいただくために、お客さまの声を第一に、深い満足を感じていただける製品やサービスの品質向上に取り組んでいます。

サプライチェーン

- ・人権や環境などに配慮した持続可能なサプライチェーンの構築を目指します。

従業員

- ・従業員一人ひとりが自ら継続的に学び、その可能性を最大限発揮できるよう、いつでもどこでも学べる機会を提供します。さらに、従業員の健康と安全を第一に、活力のある職場づくりを目指します。

地域社会への貢献

- ・「環境」「交通安全」「ダイバーシティ」に関連する地域社会への貢献活動を通じ、「よりクリーンで安全、そしてすべての人に平等な機会が与えられる社会」を目指します。

ガバナンス：日産は法令とルールを遵守し、公平・公正で透明性を持った事業活動を行います。

コーポレートガバナンス・内部統制

- ・グローバルでのコンプライアンス体制を整備するとともにガバナンスを強化し、法令遵守と高い透明性を持った事業活動を推進します。

「国連グローバル・コンパクト」に署名

日産は国際的なガイドラインや協定に積極的に参画しており、国際的なポリシーや基準を尊重して事業活動を行っています。

日産は、国連が提唱する「人権・労働・環境・腐敗防止」についての普遍的原則である「国連グローバル・コンパクト」に、2004年から参加しています。国連グローバル・コンパクトは、国連のコフィー・アナン事務総長(当時)が1999年に世界経済フォーラム(ダボス会議)で提唱した、企業による自主行動原則です。日産では、国連グローバル・コンパクトの10原則に基づくさまざまな活動を一層強化するために、サステナビリティマネジメントを進めています。

WE SUPPORT



* 国連グローバル・コンパクトに関する詳細はこちらをご覧ください
<https://www.ungcn.org/>

目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集・索引
Nissan Ambition 2030	CEOメッセージ	CSOメッセージ	取締役会議長メッセージ	ルノー・日産自動車・三菱自動車によるアライアンス	日産のサステナビリティ

サステナビリティビジョンとSDGsへの貢献

サステナビリティ戦略「Nissan Sustainability 2022」を推進するに当たり、ESG (Environmental : 環境、Social : 社会性、Governance : ガバナンス) 各側面の取り組みには、2022年に達成すべきゴールを設定しています。2022年のゴールとは、日産の事業における機会および課題と、社会からの期待を踏まえて策定した「サステナビリティビジョン」の実現に向け、2022年時点で達成すべき目標です。

環境領域では、日産は2050年までにクルマのライフサイクル全体におけるカーボンニュートラルを実現する目標を設定し、2030年代早期より、主要市場で投入する新型車をすべて電動化車両とすることを目指しています。気候変動に伴う産業構造の改革においては、「Just transition(公正な移行)」の考えを実践し、「誰も取り残されない社会」の実現を目指します。ESGの各取り組みにおける目標を達成し、サステナビリティビジョンを実現することで、日産の持続的成長と社会の持続的な発展の両立を追求します。それにより、SDGsの目標達成にも貢献していきます。

サステナビリティビジョンと2022年のゴールの考え方



各取り組みのサステナビリティビジョンと2022年の主なゴール

ESG側面の取り組み	サステナビリティビジョン	2022年の主なゴール/アプローチ	主に日産環境戦略が価値を与えるSDGs領域	
環境	気候変動	2050年にライフサイクルでのカーボンニュートラルを実現することとし、2030年早期より、市場で投入する新型車すべてを電動化車両とする 製品および生産活動からのCO ₂ 削減に向け取り組む ・クルマからのCO ₂ を削減する：新車からのCO ₂ 排出削減40% (2000年度比：日本、米国、欧州、中国) ・企業活動全体からのCO ₂ 排出削減：グローバル販売台数当たりのCO ₂ 削減30% (2005年度比)	 	
	資源依存	新規採掘資源依存ゼロ ・2050年において台当たりの資源使用量のうち、新規採掘資源に頼らない材料を70%にする 廃棄物埋め立て量、廃棄物削減等への取り組みも含め新規資源の使用量最少化を目指す ・新車の30% (重量ベース) を新規採掘資源に依存しない材料にする	 	
	大気品質	ゼロ・インパクト	製品および生産活動からの排出ガスグリーン化等に取り組む ・車室内の空質環境を改善する：実用化に向けた開発を促進 ・生産活動でのVOC排出を削減する：塗装面積当たりのVOCを削減 (2010年度比)	
	水資源	ゼロ・ストレス	・工場での水資源利用の削減に向け取り組む：グローバル生産台数当たりの水使用量21%削減 (2010年度比)	

目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集・索引
Nissan Ambition 2030	CEOメッセージ	CSOメッセージ	取締役会議長メッセージ	ルノー・日産自動車・三菱自動車によるアライアンス	日産のサステナビリティ

ESG側面の取り組み		サステナビリティビジョン	2022年の主なゴール	主に貢献するSDGS
社会性	交通安全	日産車がかかわる死者数を実質ゼロにする	安全性に係わる技術の進化と採用拡大を推進する	 
	ダイバーシティ&インクルージョン	人種、国籍、性別、宗教、障がい、年齢、出身、性自認、性的指向など、多様なバックグラウンドからなる人財一人ひとりが力を最大限発揮できるインクルーシブな組織を実現し、イノベーションを創出して持続的な成長につなげる	女性管理職比率について、基本的な考え方として、女性管理職比率と間接従業員に占める女性比率を同等レベルに近づけることを目標とする(日本)	  
	品質	製品品質	お客さま視点でトップレベルの品質を目指す	
		セールス・サービス品質	すべての主要国においてトップレベルのセールス・サービス品質を実現し、長期的にトップレベルを維持する	
	サプライチェーン	環境と人権に配慮した持続可能なサプライチェーンの構築を目指す	<ul style="list-style-type: none"> 当社と取引のあるすべてのサプライヤーが「ルノー・日産サプライヤー-CSRガイドライン」を遵守する サプライヤー環境調査やサプライヤーとの協業を通じ環境負荷の低減を目指す 	 
従業員	従業員の能力開発	日産は、将来へ向かってさまざまな状況に対応できる能力を育む	以下の取り組みを通じて、継続的な学習と自己開発を日産の企業文化にすることを旨とする <ul style="list-style-type: none"> 自己開発のための統合フレームワークの導入 リーダー育成プログラムの最適化 「いつでも、どこでも学べる」デジタルツールの提供 	 
	労働安全衛生	災害事故や疾病のない明るく活力ある職場の実現	<ul style="list-style-type: none"> 労働災害度数率を継続的に前年度の実績以下に維持する。死亡事故に関してはゼロとすることを旨とする 健康経営を推進し、いきいきと働く企業の実現を目指す 	

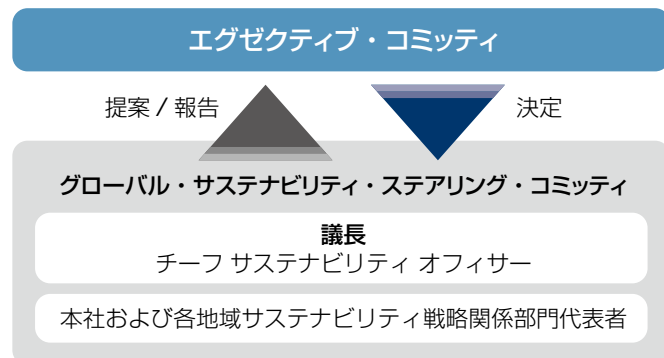
ESG側面の取り組み		サステナビリティビジョン	2022年の主なゴール	主に貢献するSDGS
社会性	地域社会への貢献	よりクリーンで安全かつすべての人に平等な機会が与えられる社会を実現する	環境、交通安全、ダイバーシティの3つの戦略領域に関連する社会貢献プログラムをグローバルで実施する	    
	ガバナンス	コンプライアンス	コンプライアンス違反未然防止の仕組みを機能させ、日産グループ全体でコンプライアンスの遵守を徹底する	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスリスク領域ごとのモニタリング機能の強化と、その統合的な監督の仕組みを構築する サードパーティを含めた日産のビジネスプロセス全般のコンプライアンス強化を徹底する
		マネジメントリスク	情報セキュリティの維持・強化、情報漏えいの未然防止・被害最小化・透明性維持などを、ベンチマークレベルで達成する	情報セキュリティの維持・強化において、新たな環境・領域への対応を含めて、各分野ベンチマークレベルで達成する

目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集・索引
Nissan Ambition 2030	CEOメッセージ	CSOメッセージ	取締役会議長メッセージ	ルノー・日産自動車・三菱自動車によるアライアンス	日産のサステナビリティ

サステナビリティ推進体制

サステナビリティ戦略の目標設定や進捗確認など具体的な活動の社内横断的な管理については、チーフ サステナビリティ オフィサー(CSO: Chief Sustainability Officer)が議長を務めるグローバル・サステナビリティ・ステアリング・コミッティで議論しています。グローバル・サステナビリティ・ステアリング・コミッティは年2回開催し、ESG各領域で活動を担う部署の責任者が参加します。各活動は担当部署が責任を持って推進し、その進捗はコミッティで報告されます。PDCA(Plan-Do-Check-Act)サイクルを回すことで、サステナビリティパフォーマンスのさらなる向上を追求しています。2021年度も2回開催しました。さらにグローバル・サステナビリティ・ステアリング・コミッティでの議論は日産の最高意思決定機関であるエグゼクティブ・コミッティ(EC: Executive Committee)に報告・提案され、サステナビリティの方針や今後の取り組みの決定にいかされています。

サステナビリティ戦略に関する意思決定プロセス



経営層の役割と評価

2021年度においては、長期インセンティブ報酬の1つである業績連動型インセンティブ(金銭報酬)において、サステナビリティに関する評価指標を新たに追加しました。これは、当社の「人々の生活を豊かに。イノベーションをドライブし続ける」というコーポレートパーパスのもと、長期的な企業価値及び社会価値を向上させ、サステナブルな企業とするための取り組みの成果を報酬に反映させるものです。なお、当社が中長期的な企業価値及び社会価値を向上させ、サステナブルな企業となるための戦略のうち、特に事業への影響が大きく、ステークホルダーの関心も高い下記の二つの観点について、関連する評価指標を追加しました。

- 環境課題への対応：カーボンニュートラルに関わる取り組みを評価する外部指標
- 社会課題への対応：人権尊重に関わる取り組みを評価する外部指標
(業績連動型インセンティブ(金銭報酬)の評価指標のうち10%を当該指標に配分しています)

* 報酬制度の評価指標に関する詳細は2021年度有価証券報告書(P58-66)をご参照ください
<https://www.nissan-global.com/JP/IR/LIBRARY/FR/2021/ASSETS/PDF/fr2021.pdf>

* 報酬委員会に関する詳細はこちらをご覧ください。
[>>> P166](#)

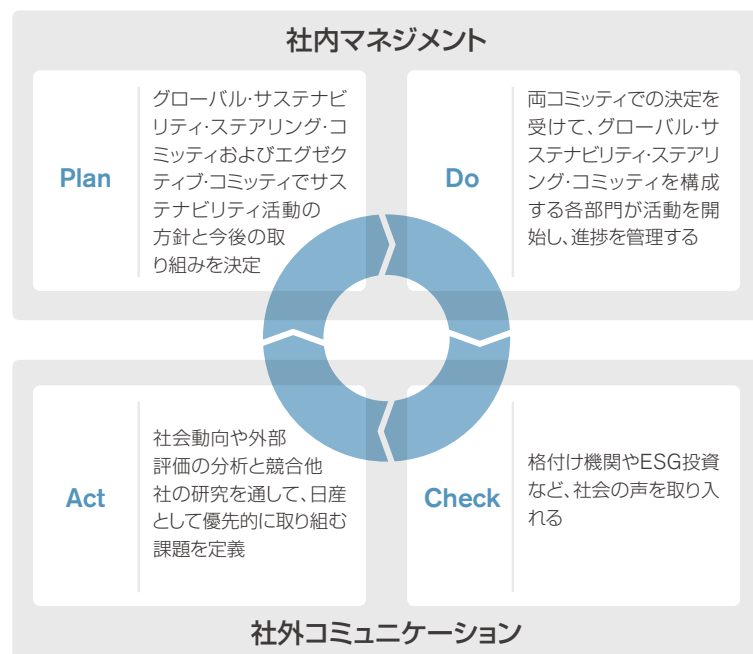
目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集・索引
Nissan Ambition 2030	CEOメッセージ	CSOメッセージ	取締役会議長メッセージ	ルノー・日産自動車・三菱自動車によるアライアンス	日産のサステナビリティ

サステナビリティ推進のマネジメント

サステナビリティを推進するPDCAサイクル

日産では、グローバル・サステナビリティ・ステアリング・コミッティおよびエグゼクティブ・コミッティ(EC: Executive Committee)でサステナビリティの方針を決定したうえで、活動の進捗を管理、社会の声の企業活動への取り込み、外部評価の分析に取り組むなどPDCA(Plan-Do-Check-Act)サイクルを通してサステナビリティ活動を推進しています。

PDCAサイクル



ステークホルダーエンゲージメント

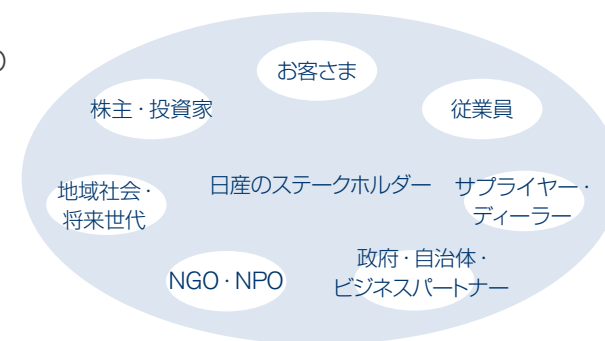
ステークホルダーとの対話

日産では、日産の事業が存続するうえでかわりのある個人または団体をステークホルダーと位置づけています。

日産は、企業活動と社会的要請のベクトルを一致させた経営を目指しており、そのためにステークホルダーの声に耳を傾け、信頼関係を構築しながら、社会の声を企業活動に反映させることが重要だと考えています。より多くの声を取り入れるために、ステークホルダーとの対話を図る多様な機会を設け、オポチュニティとリスクの芽を見いだす活動を行っています。こうした対話を本社はもちろん、事業所や海外拠点においても実施し、確実に社内にフィードバックする体制を構築しています。

ステークホルダーとの対話における具体的な事例は本レポート内で紹介しています。

日産を取り巻くステークホルダーとの対話の機会



目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集・索引
Nissan Ambition 2030	CEOメッセージ	CSOメッセージ	取締役会議長メッセージ	ルノー・日産自動車・三菱自動車によるアライアンス	日産のサステナビリティ

ステークホルダー	ステークホルダーとの対話の機会	ステークホルダーの関心事、主なテーマ	2021年度の主な取り組み
お客さま	問い合わせ窓口、ディーラー窓口、ウェブサイト、ショールーム、イベント、お客さまアンケート、TV・雑誌・SNSなどのメディア、オーナーズミーティング、アフターサービス、メール配信サービス	<ul style="list-style-type: none"> 製品やサービスの品質 お客さまへのサポート 	<ul style="list-style-type: none"> お客さま相談室対応 (約20万件・日本) Quick VOC(P126) Earth hour2022へSNSを通じて参加呼びかけ(P155)
従業員	問い合わせ窓口(社内通報制度)、イントラネット、社内イベント、面談、各種アンケート(調査)	<ul style="list-style-type: none"> 会社の業績や課題 社内ダイバーシティ 職場環境 キャリア、教育 	<ul style="list-style-type: none"> 社長講話 ECメンバーと部長層によるミーティング(MIE) 経営層(CEO・COO)によるタウンホールミーティング(P144) サステナビリティセミナー 業績評価面談 グローバル従業員意識調査
サプライヤー	定期的な会議、問い合わせ窓口、説明会、イベント、各種ガイドライン、ウェブサイト	<ul style="list-style-type: none"> 公正な取引 日産のサステナビリティ方針や中期経営計画、購買方針 	<ul style="list-style-type: none"> サプライヤー環境活動説明会(日本) 生産情報連絡会(月次) サプライヤー・ミーティング 購買方針説明会 Nissan Global Supplier Awards(P131)
株主・投資家	IR問い合わせ窓口、株主総会、決算説明会、IRイベント、取材対応、ウェブサイト、日産マネジメントレポート、メール配信サービス	<ul style="list-style-type: none"> 日産の事業戦略、業績、サステナビリティの取り組みなどを含む企業価値向上 	<ul style="list-style-type: none"> 株主・投資家とのエンゲージメント(P021) サステナビリティセミナー
政府・自治体・ビジネスパートナー	問い合わせ窓口、共同研究、業界団体の取り組み、各種協議会、意見交換会、イベント	<ul style="list-style-type: none"> 法令遵守 実証実験など公共施策への協力 共同プログラムの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 日本電動化アクション「ブルー・スイッチ」活動172件* モビリティサービスとエネルギーマネジメントを活用した福島浜通りでのまちづくり貢献 交通安全未来創造ラボ(P101)
ZOO・ZOO	問い合わせ窓口、社会貢献プログラムの運営、寄付、災害被災地支援、イベント、財団を通じた助成	<ul style="list-style-type: none"> 社会課題の解決に向けた協働や支援 	<ul style="list-style-type: none"> NPO・NGO8団体に会員として参加、意見交換実施 スマイルサポート基金(6団体支援)
将来世代・地域社会	各事業所問い合わせ窓口、地域でのイベント、工場見学、社会貢献活動、協議会、交通安全啓発活動、財団を通じた助成、寄付講座、ウェブサイト	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会への貢献 企業理念 日産のサステナビリティの取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> おもいやりライト運動(点灯呼びかけアクション)(P101) 従業員による出前授業の実施 リカジョ(理科教育助成)育成賞の授与(財団)(P157)

* 2018年5月以降2021年3月末の累計数。「ブルー・スイッチ」活動に関する詳細はこちらをご参照ください
<https://www3.nissan.co.jp/first-contact-technology/blue-switch.html>

株主・投資家の皆さまとの対話の方針

株主・投資家の皆さまは持続可能な社会をともに創造していくパートナーです。日産の事業活動を正しくご理解いただくため、株主・投資家向け広報活動(IR: Investor Relations)においては迅速で透明性の高い情報開示を継続的に行うことを基本としています。日産ではチーフ ファイナンシャルオフィサー(CFO: Chief Financial Officer)を中心に、長期的視野に立つ経営戦略や、競争力を強化するイノベーションの導入、最新の市場動向などの会社情報の適時・適切な開示と継続的なコミュニケーションを通じて、株主・投資家の皆さまと建設的な対話を行い、信頼関係の構築に努めています。

また、IR専任の部署を設け、経営企画、財務、経理、法務といった関連部門から必要な情報を収集するなど、適切な情報開示に向けてさまざまな連携を行っています。対話を通じて得られた株主・投資家の皆さまの質問や意見は、担当役員を介して取締役会および経営層にフィードバックされ、経営の参考としています。また、決算発表準備期間中における情報漏えいやインサイダー取引を防止するため、四半期ごとの決算期末日翌日から決算発表日までの間は決算情報に関する対話を一切行いません。

株主・投資家の皆さまとのコミュニケーション

株主・投資家の皆さまとのコミュニケーションとして、四半期ごとの決算説明会に加え、機関投資家との面談や証券アナリストの取材対応を、オンラインを介して頻繁に行っているほか、会社主催の事業説明会や証券会社主催のコンファレンスなどを通じて会社の状況などを積極的に情報開示しています。

目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集・索引
Nissan Ambition 2030	CEOメッセージ	CSOメッセージ	取締役会議長メッセージ	ルノー・日産自動車・三菱自動車による アライアンス	日産のサステナビリティ

さらに、投資家向けのウェブサイトを運営し、随時最新情報を開示しています。事業説明会では毎年、投資家・アナリストの関心が高いテーマを選び、各部門・地域のマネジメント層が積極的に情報を提供しています。2021年度は7月のサステナビリティセミナーに続き、サステナビリティの取り組みに関するチーフ サステナビリティ オフィサー(CSO : Chief Sustainability Officer)による質疑応答セッションを9月に実施したほか、11月には長期ビジョンNissan Ambition 2030の発表とそれに併せた最高経営責任者ならびに最高執行責任者による質疑応答セッション、12月にはアメリカズ マネジメント コミッティ議長兼北米日産会社社長による米国事業の現状及び取り組みに関する説明会を12月に実施しました。また、昨年度に続き、機関投資家と独立社外取締役のスマールミーティングを3月に実施しました。日産への理解をさらに深めていただくため、今後もニーズに合わせた適切な情報開示を実施していきます。

株主総会

株主総会は、日産の経営陣が株主の皆さまと直接コミュニケーションをとれる貴重な機会です。株主総会をはじめとするさまざまな交流を通じて、株主の皆さまの意見に十分耳を傾けるとともに、疑問に対しても適切な説明をすることで、信頼に応えていきたいと考えています。

第122回定時株主総会は、2021年6月22日、日産グローバル本社で開催し、186名の株主の皆さまにご出席いただきました。会場でご参加いただいた方々に加え、インターネット経由でも配信を行い、より多くの方々にご視聴いただきました。

* IR情報に関する詳細はこちらをご覧ください
<https://www.nissan-global.com/JP/IR/>

社外からの評価

財務面だけでなく、環境や社会性の観点から企業を評価し、投資対象を選ぶESG 投資が注目される中、日産はサステナビリティ経営を推進し、積極的な情報公開に取り組んでいます。

FTSE4Good Index Series, FTSE Blossom Japan Index, FTSE Blossom Japan Sector Relative Index



FTSE4Good FTSE Blossom FTSE Blossom Japan Japan Sector Relative Index

FTSE4Good Index Series, FTSE Blossom Japan IndexおよびFTSE Blossom Japan Sector Relative Indexは、グローバルなインデックスプロバイダーであるFTSE Russellが、ESG(Environmental : 環境、Social : 社会性、Governance : ガバナンス)について優れた対応を行っている企業のパフォーマンスを測定するために設計したものです。いずれもサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。FTSE Blossom Japan IndexおよびFTSE Blossom Japan Sector Relative Indexは、日本企業に特化したインデックスです。日産は2021年に行われた評価において、FTSE4Good Index Seriesに引き続き選定され、FTSE Blossom Japan

目次	Corporate direction	環境	社会性	ガバナンス	データ集・索引
Nissan Ambition 2030	CEOメッセージ	CSOメッセージ	取締役会議長メッセージ	ルノー・日産自動車・三菱自動車によるアライアンス	日産のサステナビリティ

Indexにおいても6年連続で構成銘柄に選定されています。FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexへは、同indexが新たに設定された2021年に組み入れ企業として選定されました。

* FTSE4Good Index Series に関する詳細はこちらをご覧ください

<https://www.ftserussell.com/ja/products/indices/ftse4good>

* FTSE Blossom Japan Indexに関する詳細はこちらをご覧ください

<https://www.ftserussell.com/ja/products/indices/blossom-japan>

* FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexに関する詳細はこちらをご覧ください

<https://www.ftserussell.com/ja/products/indices/blossom-japan>

「FTSE Russell (FTSE International Limited と Frank Russell Companyの登録商標)はここに日産自動車
が第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index組み入れの要件を満たし、本インデックス
の構成銘柄となったことを証します。FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexはサステナブル投資のファン
ドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。」

CDP気候変動およびウォーターセキュリティ2021

2021年度の気候変動、および水資源に対する取り組みとその情報開示により、環境分野で世界的に権威のある国際的な非営利団体CDPより、「気候変動」と「ウォーターセキュリティ」の2部門で最高評価である「Aリスト」企業に認定されました。日産が「気候変動」および「ウォーターセキュリティ」の2部門で同時にAリスト認定を取得するのは2019年度以来2度目となります。



「ローレウス・スポーツ・フォー・グッド・インデックス」において、世界で最も社会的影響力のあるブランドの一つに選出

スポーツを通じて社会や環境にポジティブな影響を与えているブランドに対して与えられる「ローレウス・スポーツ・フォー・グッド・インデックス」に、運輸業界において唯一、日産は選出されました。フォーミュラEへの参戦を通じて、スポーツ界にポジティブな影響を与えながら、電気自動車(EV)の普及を促進している取り組みや、パートナー企業と協力し、アムステルダムにあるヨハン・クライフ・アリーナにおいてEV用のバッテリーを二次利用する欧州最大の蓄電システムを構築したことなどが評価されました。

